空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

青空文庫

酒井欽蔵　（四十八）
妻　いく　（四十五）
娘　加代　（二十四）
息子　鉄蔵　（十八）
娘　美代　（十六）
店員　庄市　（三十）
其他

解説　東京山の手の裏通りに、さゝやかな店を構へてゐる時計商、酒井欽蔵の一家、物語の中心はこの一家であります。帝都は既に敵機襲来に備へて、警戒管制が敷かれてゐるのです。蒸し暑い真夏の夜のことです。

店先に並んだ大小幾十の時計が一斉に時を刻んでゐる。やがて、オールゴール入りの眼覚し時計が平和なメロディを奏ではじめる。これは、今、主人欽蔵が店先で修繕をしてゐるのだ。

奥の部屋で

妻いく　こんな晩に、仕事をする人つてあるか知ら……全く変りもんだよ、お父つあんは……。

娘加代　鉄ちやん、もう起しといた方がよかない？　若しか、急に出て行くやうなことがあると、晩御飯も食べないぢや、お腹を空かすわよ。

いく　さあ、お腹もお腹だけど、昨夜からあの通り眠つてないんだからね。お握りでもこさへといてやらうよ。

加代　なんだか元気がなささうなんだもの。いやだわ、あたし。かういふ時は、もつと勇ましさうにしてゝくれなきあ、張合がないぢやないの。

いく　そこへ行くと、兵隊に行つてただけあつて、庄さんなんかきびきびしたもんさ。まるで、お祭へでも出掛けるやうな……。

加代　さうよ、あれも普通ぢやないけど、鉄ちやんみたいにしてると、人が変に思ふわね。臆病なんだと思はれてよ。

いく　臆病かね、あれで……。

加代　ほんとはどうだかわからないわ。十八の子供にしちやあれで、なかなか図太いところがあるんだけど……五円のお小遣ひきりで、北海道を一とまはりして来るなんて、ちよつと出来ない芸当よ。

いく　（突然、頓狂な声で）あゝ、びつくりした。いやな美代ちやんだよ。そんなもの、今頃からくつつけてどうすんの。

娘美代　（防毒マスクをつけた声で）兄さんのをちよつと借りたのよ。これをつけて、毒瓦斯の中へ飛び込んで行くんだわ。重いわよ。

いく　また、兄さんに叱られるから……。

美代　（マスクを外して）ほんとに戦争あるの。嘘見たいでしやうがないわ。お父つあん、だつて、あんな平気な顔してお店に坐つてるぢやないの。

欽蔵　（はじめて）お美代……。

美代　なあに？

欽蔵　鉄蔵を起して来い。

美代　よく眠てるわよ。

欽蔵　いゝから起して来い。

時計のねぢを巻く音。オールゴール。

美代が階段を走り上る音。

美代　兄さん。

鉄蔵　……。
美代　兄さんつたら……。
鉄蔵　……。
美代　可哀さうね。こら、兄さん、起きるのよ。
鉄蔵　（飛び起きたらしい）
美代　あら、そんなに吃驚りしないだつていゝわ。
鉄蔵　畜生……。
美代　お父つあんが起して来いつて云ふんだもの。
鉄蔵　おやぢ、なにしてるんだ。
美代　眼覚しを直してるわ。
加代　（上つて来て）鉄ちやん、眠いでせう。
鉄蔵　当りめえよ。おやぢ、なんの用があるんだい。
加代　あんた、あんまり元気がなささうだからよ。心配してるんだわ。
鉄蔵　きつと。
加代　やい、マスクをどうしたんだい、こいつ……入れとけよ。
鉄蔵　お父つあんと喧嘩しちや駄目よ。なに云はれても、ハイハイつて云つてなさい、（間）鉄ちやん、なにぼんやりしてんのよ。

鉄蔵、急に起ち上つて、階段を下りはじめる。

鉄蔵　お父つあん、なにか用？
欽蔵　まあ、そこへ坐れ。
鉄蔵　そんな時計、何時だつていゝんぢやないか。それより松田さんの懐中、早く頼むつて云はれてるんだぜ。あの人警報班で、時計がないと不自由だらう。
欽蔵　わかつてる。さつき代りを渡しといたよ。時に、お前からだの具合でも悪いんぢやねえか。
鉄蔵　どうして？
欽蔵　浮かねえ顔をしてるからさ。
鉄蔵　戦争で浮いた顔ができるかい。
欽蔵　出来ないつてのは、生命が惜しいからだ。やい、男なら男らしく、腕つ節をみせろ。日本男児は、理窟を云はずに、悦んでお国のために働くんだ。手前は、防護団の一員ぢやねえか。毒瓦斯班といふ大事な役目を云ひつかつてるんだ。葬式へ参列するやうな面をして、そんな任務が勤まると思つてゐるのか。第一、見つともねえぢやねえか。
鉄蔵　第一、毒瓦斯班なんてものはありやしないよ。防毒班だよ。それから、お父つあんは、僕の面が葬式へ参列するみたいだつて云ふけど、全く、さういふ気がしてるんだ。悲しいやうな、じれつたいやうな、早く云や、面白くもなんともないんだ。
欽蔵　何が面白くねえんだ。
鉄蔵　今度の戦争がさ。文明人なら文明人らしい戦争をしたらよささうなもんぢやないか。
欽蔵　ところが、空中戦なんてえのは、文明が進んだ証拠ぢやねえか。
鉄蔵　抵抗力のない女子供を、空の上からおどかすなんて、全く、強盗か野蛮人の仕業だよ。
欽蔵　そんなこと云つたつてしやうがねえ。だから、その女子供を、われわれ男が……。
鉄蔵　（夢中で）僕の声が若し千里先まで聞えるなら「やい貴様

達恥を知れ」つて云つてやるよ。

加代　鉄ちやん、御飯をおあがりよ。

鉄蔵　なんにも食ひたくないんだ。

加代　夜中にまた、お腹がすくわよ。交代は十一時なんだから、まだ時間があつてよ。

鉄蔵　ぢや、食ひ納めに食つてやらあ。

欽蔵　敵が攻めて来るからつて、飯が喉へへえらねえやうでどうする。あきれた野郎だ。

沈黙。

波の音に交つて、電話の呼鈴。

「小笠原島東方五キロ、はい聞えます。敵の主力艦隊……はい……航空母艦二隻を有する……はい……千葉監視隊本部へ……はあ……無線電信の故障で……はい……はい、わかりました」

波の音が次第に消えて、再び時計のチクタク。

欽蔵　戦争が好きだとか嫌ひだとか云つてみたところではじまらねえ。だからよ。どうしても戦争をしなけれやならんと云ふんなら、勝つより外に道はあるめえ。負けたら最後おれたちや、犬猫同然だ。手前のやうな、煮えきらねえ男ばかりだつたら、それこそ、勝つ戦もどうだかわからなくなるぞ。

鉄蔵　そんなこと云つて、お父つあん、僕たちや、手の出しやうがないぢやないか。爆弾にしろ、毒瓦斯にしろ、相手は喧嘩にならない代物なんだぜ。敵の飛行機は、味方の軍隊がやつつけようとする。それやいゝさ。だけど、僕たちや、地べたの上で、何をしてるんだ。武器を執つて堂々とわたり合ふことも出来ず、たゞ殺されない工夫ばかりしてなきやならないんだ。

欽蔵　それが間違えだ。手前は、自分のことばかり考へてる。なぜ「殺させない工夫」と云はねえんだ。自分を守るんぢやねえ。同胞を守るんだ。帝都を守るんだ。日本といふ国を守るんだ。そんなことがわからねえのか。

鉄蔵　わかりすぎるくらゐわかつてるよ。僕の云ふのは、なんのために働くかといふことぢやない。同じ働くにしても、受身ぢや張合がないと云つてるだけだ。

欽蔵　なんだ。張合がねえ！

鉄蔵　言葉は悪るいかも知れないよ。ぢや、なんて云つたらいゝかな。

欽蔵　なんにもいはないのが一番いゝ。

鉄蔵　だから、僕は、なんにもいはずにゐたんぢやないか。お父つあんが、余計なことを訊くからさ。僕は、空元気をつける必要はないんだ。

欽蔵　みんなが気もちを揃へようと思つたら、ちつたあ、大きな声ぐらゐ出すもんだ。

鉄蔵　ヨイトマケ、ヨイトマケつてかい。

欽蔵　畜生、このおれだつて、何時までも、ぢつとしちやゐねえぞ。防護団の連中に欠員が出来たら、何時でも出掛けてくから、手前さう伝へてくれ。

鉄蔵　そんなこたあ、云はなくつたつてわかつてるよ。

加代　食べたくないなんて、随分食べるぢやないの。
美代　兄さん、お弁当つけて何処へ行くの……。
鉄蔵　おつ母さん、服部の息子ね、僕と同じ班なんだぜ。昨日、戦友の契を結ぼうなんて、レモン・テイイをおごりやがつた。あいつ、センチだからなあ。
美代　もう、頭髪分けてんのね。
いく　あんな大きなお店でも、息子さんが毒瓦斯の組へはひりなさるのかね。
鉄蔵　鼻の利くやつがとられたんだよ。試験にパスしたんだからしやうがないや。
美代　あら、どんな試験？

オールゴールの音が次第に消え、波の音がだんだん高く聞え出す。犬吠崎附近の海岸監視哨。波の音。

A　来たぞ、来たぞ。
B　待て、落着いて聴け。
C　距離は？
A　確かにさうだ。ちよつと、測つてくれ。
B　懐中電燈を見せろ。
C　おい、伝令。

電話の呼鈴。

声　銚子第二監視哨報告……午後八時五十分、東北二千五百、重爆三機、高度三千、海岸に沿ひ南進す。

電話の呼鈴。

別の声　東金防空監視隊本部報告……午後八時五十二分、鳴浜東方三千、重爆三機、高度二千五百、九十九里海岸に沿ひ南進……。

電話の呼鈴。

別の声　関東防衛司令部ですか。こちらは、千葉監視隊本部です。

電話の呼鈴……（前の文句に重つて）

防衛司令部
A別の声　警報係！　非常燈火管制……。
B別の声　こちらは防衛司令部です。司令官命令、各部隊は戦闘配備に就け。
C別の声　飛行隊は速かに出動せよ。
D別の声　消防、防毒機関、直ちに警戒配備につけ。

これに重ねて、遥かに砲声。砲声が消えると、もとの、時計のチクタク。

加代　あゝ、さうさう、さつきお父つあんの留守に、あの方が、

ほら、予備の少将つて方がいらしつたわ。時計はまだ出来ないかつて……庄さんもゐないし、あたしぢやわからなかつたの。

欽蔵　ありや、ヒゲが錆びてたから取替へたんだ。今時間の調節をしてゐるとこなんだが、二三日待つて貰ふよりしやうがねえ。畜生、手がふるへてやがら。敵の飛行機なんかちつとも怖かねえが、どうも、空襲つてものにや慣れてねえからなあ。

急にサイレンの音。

美代　あ、電気が消えたわ……。

加代　ぢつとしといで。

いく　また点いた。なんだい、あのサイレンは……。

美代　来たんだわ。飛行機が来たんだわ。

いく　ちよいと、あんた……ほんたうですか。

欽蔵　静かにしろ。雨戸はしめたか。

加代　二階の電気。

サイレンの音に交つて、（空襲、空襲）とさけぶ警報班員の声。

某地点にある照空隊長の号令。

定位に就け。

目標、東方上空の爆音。

航速四十。

運転始め。

照射用意。

照空隊分隊長の号令。

A　第一分隊聴音よし。

B　第二分隊聴音よし。

C　航速四十。

A　運転始め。

（発電自動車の機関の音）

A　照射用意、送電。第一分隊点燈よし。

B　第二分隊点燈よし。

照空隊長の号令。

統一照射。

十秒照射始め。

用意、測れ。

照空隊分隊長の号令。

A　統一照射、十秒照射始め。

B　用意、測れ。

C　零五二、四三（射手の報告）

A　照射。

照空隊長の号令。

目標発見。
目標追随。
聴音機は東方上空を警戒せよ。

高射砲隊長の号令。

目標、東方上空の射光内の重爆。
高度千二百。
始め。
航速十秒。
航路角五百。
五発。

（砲声続いて五発）弾丸を装填する音。発射。弾丸の空気を裂く音。爆裂する音。薬莢の落ちる音。飛行機の爆音。機関銃の音（空中戦に於ける）やがて凄じい爆弾の音。悲鳴。その余韻に続いて、再び、時計のチクタク。

欽蔵　出掛けるか。よし、しつかり頼むぞ。
鉄蔵　姉さん、水筒……。
加代　気をつけてね。

美代　兄さん……。（泣声になる）

また、爆弾の音、続いて二つ。

美代　お父つあん……。
欽蔵　大丈夫、大丈夫……。

爆弾、砲声、機関銃、プロペラの音、しばらく止まず。
あちこちに、悲鳴が聞える。警報班員及び交通班員の声。

警報班員A　なるべく家の外に出ないで下さい。
交通班員　避難者は道路の右側をあけて下さい。

消防自動車のサイレン。呼子、拍子木。

B　第二小学校附近に毒瓦斯弾を投下しました。防毒マスクを用意して下さい。
C　この辺は風下ですから、急いでマスクをつけて下さい。
A　早く用意をして下さい。

避難する群集の騒音。

加代　鉄ちやんの組が行くんだわ。
いく　防毒班つていへばさうだね。あのマスクをしてゐれば、大丈夫なんだらう。

欽蔵　鉄のことはどうでもいゝ。早く、お前たち、マスクをかけろ。糊刷毛は何処へやつた。

　表の戸をたゝく音。

欽蔵　なんですか。

声　旦那、わたしです。庄市です。

欽蔵　あゝ、庄さんか、どうしたい？

庄市　どうも、この辺は危いですよ。避難した方がよささうです。猛烈な毒瓦斯らしいです。普通のマスクぢや、駄目と見えて、ばた〳〵やられます。

欽蔵　何処へ避難するんだい？

庄市　ですから、わたしが御案内します。早く、みなさん出て下さい。

　群集の叫び声、砲声に交つて、愈々はげしくなる。

欽蔵　やめたよ、庄さん、おれたちは動くまい。行つた先でまたやられやおんなじこつた。それより、救護班の方は忙がしかないかね。

庄市　あゝ、忙がしいには忙しいやうですが、救護班も今、避難準備をしてゐるところです。なにしろ、一度にどつとやつて来たもんですから……。

欽蔵　よし、おれはそつちへ行くよ。旭市場だつたね、救護所は……いゝから、君はほかを廻れ。おい、お加代、あとを頼むぞ。

加代　お父つあん、あんたみたいな半病人が行つたつて、なんにもならないわよ。

欽蔵　馬鹿吐かせ。子供をおぶふぐらゐのこたあ、おれにだつて出来ら。

加代　人手が足りなけれや、予備班つていふのがあるんだから、お父つあんなんか行つたつて、追ひ返されるだけよ。

　直ぐ近くに、爆音。美代をはじめ、女共のけたゝましい悲鳴。

庄市　あ、飛行機が落ちた。

欽蔵　敵のか。

庄市　さあ……あゝ、燃える、燃える。こりやいけない。

加代　どこ？　どこ？

　しばらく、砲声と、プロペラの爆音。群集のどよめき、電話の呼鈴。

声　防衛司令部参謀です。敵機主力は千葉方面に一部は東京湾に向つて退却。友軍戦闘機は、これを急追中であります。は？　いえ、まだ、そつちの方面からは情報が上がりません。は？　あゝ、さうですか、敵の航空母艦、艦名はわかりませんか。それや御目出度う。いえ、大したことはありません。

　電話の呼鈴。

声　下田監視哨報告。三十機以上より成る敵の爆撃機編隊はその先頭を以て、只今、大島南端上空を北進中。高度三千。

電話の呼鈴。

別の声　海軍飛行隊の一部は直ちに出動、大島の上空に於てこれを邀撃せんとす。

電話の呼鈴。やがて、底鳴りのやうなどよめきの中に、時計のチクタク。警報班員の声。

A　敵機は退却しました。しかし、まだ油断はできません。非常管制を継続します。

B　救護所の手は揃ひました。却つて混雑を出しますから、もうどなたも手伝ひを御遠慮下さい。

C　毒瓦斯は空気より重いのですから、縁の下へ逃げ込まないで下さい。臭ひがしたら、取りあへず、濡れ手拭で鼻をおさへて下さい。

欽蔵　それみろ、なんでもありやしない。万事早く片づくところはえれえもんだ。おい、かうして、もしやうがねえ。仕事台をこつちへ持つて来るから、お加代、ちよつと手を貸してくれ。

いく　こんな明りで。あんた……。

欽蔵　黙つてろ。駄目だよ、そつちをそんなに持ち上げちや……ほら、ピンセツトがおつこちた。どつこいしよつと……坐蒲団をよこせ。こら、お前たちも、うろうろしてないで、針仕事でもしろ。

いく　戯談ぢやありませんよ。ほんとに、そんな呑気な真似してゝいゝんですか。

加代　いゝぢやないの、お父つあんはお父つあんで、したいことをさせといてあげたら……あゝしてないと、気が落ちつかないのよ。

美代　あたし、御不浄へ行つてもいゝか知ら……。

加代　いけないわよ。

いく　馬鹿だねえ。さつさと行つといで。明りを点けつぱなしにしちや駄目だよ。

欽蔵は、また眼覚の修繕にかゝつたらしい。ねぢを巻く音。やがて、例のオールゴールのメロデイ。

いく　鉄ちやんはどうしてゐるだらうね。

加代　人並のことはするわよ。

いく　どういふもんだろね。息子が戦争に出る時、母親はこんなぢやいけないと思ふんだけれど、やつぱり、普通の気になり方と違ふんだから……。

加代　だつて、おつ母さん、鉄ちやんばかりが危い目に会ふんぢやないわよ。あたしたちも戦争の真中にゐるのよ。

いく　それやさうだけどもさ。あの子は、毒瓦斯の中へはひつて行くんだつていふぢやないか。それに、なんといつても家の中とは違ふからね。

欽蔵　うるせえな、そんなお袋だから、鉄みたいな愚図々々ができちまふんだ。

いく　それや、あたしだつて、あの子の前でこんな事云やしませんよ。

欽蔵　思つてることは顔色に出る。

いく　思つてることだつて、それが全部ぢやありませんからね。あの子が立派な働きをしてくれゝばいゝ、さうも思つてるんですよ。

欽蔵　立派な働きをして……まあ、どうでもいいや、そんなこたあ……おい、お加代、表の戸棚へはひつてる油砥石を持つて来てくれ。それと、序に、機械止の捻廻し……。

加代　表ぢや、まだ人が騒いでるわよ。いやだ、誰か大きな声で泣いてるわ。

その泣声が次第に聞えて来ると、それがまた、だん〳〵遠ざかる、救護所である。様々な声。うめき声。

男Ａ　重症患者は、向うのテントへ運んで下さい。

男Ｂ　もつと担架を持つて来なくつちや駄目だぜ。

女甲　今、先生が見えますから、少し我慢なすつて下さい。

女乙　あら、困るわ。今こゝへ置いた繃帯、誰が持つてつたの。

女丙　ちよつと、オキシフル、もうないぢやないの。

女甲　先生、先生、この方を早く診てあげて下さい。

女丁　いけません。勝手におはひりになつてはいけません。あとでお会はせします。治療の邪魔になりますから、一切面会は禁じることになつてゐます。

患者　あ痛い、痛い、痛い……あゝ、苦しい。

その声がかすかに消えると、けたゝましい電話の呼鈴。

声　大磯監視哨報告、三機より成る敵の軽爆撃隊は驚くべき快速力を以て、大磯上空を通過せり。高度二千、北進。北進。

防衛司令部参謀の声　おい通信手、横浜地区司令部へ接続。

遥かに機関砲の音。やがてサイレン。

高射砲隊長Ｂ　目標、西方上空の射光内の軽爆。

プロペラの爆音。

「高度二千」

「始め」

「航速十五秒」

「航路角六百」

「六発」

（砲声六発）

喊声とも悲鳴ともつかぬどよめき。

防護団分団本部員Ａ　毒瓦斯弾無数に投下さる。警戒せよ。

B　防毒班、防毒班。
C　第一班、出動準備。
D　第二班、準備。
E　第三班。
F　旭市場(あさひいちば)の附近だ。救護所だ。

その声の上にかぶさつて呼子拍子木。機関砲の音。

救護班員C　患者を運び出せ。
D　風の方向は？
E　東南……。
D　ようし、避難所は佐竹子爵(さたけししゃく)の邸内。
C　慌てるな、慌てるな。
F　防毒班はまだ来ないか。
C　救護班の予備班徴集。
女甲　さ、しつかりつかまつて下さい。
D　担架々々。
E　軽症患者は歩かせろ。
女患者B　とても駄目だわ。もう呼吸(いき)が、あゝとても苦しいわ。
D　しつかり、しつかり。
E　眼をやられるぞ。
女患者D　早く連れてつて下さあい。子供を子供を……。

その声がかすかに消えると、それにかぶせてかすかな砲声、時計のチクタク、オールゴール。

加代　美代ちやん……ちよつとこゝしばつて……あゝ袂(たもと)が面倒臭いなあ。お父つあん、今度こそは、こゝにゐちや駄目よ。
欽蔵　やかましい奴だなあ、さつきも庄市がさう云ひに来たぢやないか。消毒薬がとてもよく効いて、こんなことなら毒瓦斯はちつとも怖くないつて……第一、まだ臭ひもなんにもしやしないぢやないか。軍隊は強いし、防護団の諸君はなか〳〵訓練が行届いてるし、われわれ非戦闘員はなるだけぢつとしてゐて、お互にぶざまなところを見せ合はない方がいゝんだ。その代り、いざ手がいるとなつたら、どんなことでも引受けるさ。
いく　なんだい、あの騒々しい音は……。

警報班員の声。

A　只今、旭市場前に毒瓦斯弾が落ちましたが、この辺は避難の必要ありません。救護班の第一予備員の方は、至急マスクをつけて、旭市場救護所へお集り願ひます。
いく　加代ちやんの番かい。
加代　あたしは第二よ。

警報班員の別の声。

B　救護班第二予備員の方は、至急佐竹子爵邸仮救護所へお集り下さい。
加代　第二ですか。

B　さうです、佐竹子爵邸ですよ。

加代　はい、わかりました。きつと救護所の引越しだわ。

いく　足袋をはいといでよ。

美代　姉さん……。

加代　行つて参りまあす。

欽蔵　さう〳〵、さう来なくつちや。

戸の開く音。戸外のどよめきが流れる中を、草履の音を高く、加代は走り出す。

消毒液を撒布する音。

防毒班A　やあ、まだこの辺は臭いぞ、みんな来てくれ。

B　家の中が大変だ。

C　逃げ遅れたものはゐないか。

D　おい、酒井君、何処へ行くんだ。

鉄蔵　君達、その辺を頼むぜ。まだ奥の方が残つてるから、僕ちよつと行つて見てくらあ。

酒井鉄蔵は、かうして、ある長屋の路地へ進入して行く。

鉄蔵　おや、誰か倒れてるぞ。もし〳〵、どうしたんです。小母さん、マスクはないんですか。早く逃げなきや駄目ですよ。弱つたな。もう起てないんだね。待ち給へ、おゝい、救護班……救護班来てくれ。苦しいの。さう〳〵、喉が苦しい。ぢや、しかたがない。僕のマスクを貸してあげよう。さ、その代り大急ぎだ。フウ……フ……いゝですか、しつかりおぶさつて下さい……（咳入る）……うむ。……

鉄蔵は、老婆を負ぶつたまゝ、その場に倒れる。

A　今、誰か呼んでたやうだぜ……こんなところは、いゝ加減にしとかうよ。酒井君はどうしたんだい。しやうがないなあ、一人で行つちまつちや……おゝい、酒井君……鉄蔵君……。

高射砲の音、遥かに……やがて、遠くで（万歳）といふ歓声。

BC　酒井君……鉄蔵君……。

女の声（無論加代である）

加代　あなた、服部さんのお子息さんでしたね。鉄蔵がどうかいたしましたんですか。

A　暗くなつてよくわからないんですが、探してるんです。たつた今、一緒にゐたんですけど、なんでも、この奥へ入つて行つたらしいんです。駄目ですよ、まだ毒瓦斯が残つてゐますから……。

B　お待ちなさい。今、消毒薬を撒きますから……。

機関銃の音。続いてまた（万歳）といふ声。

加代　あの黒いのはなんでせう？

A　懐中電燈をつけませう。

加代　あ、鉄ちやん……鉄蔵ですわ。鉄ちやん……どうしたの…

……こんなとこで……。

B　無茶だ、こいつ、マスクを脱ぐなんて……。

C　酒井君……（半ば憤り）このお婆さんは一体、だれだい？

加代　鉄ちやん、あんたは、この人を助けようと思つて……。

機関銃の音、ひとしきり。やがて、この音に交つて、電話の呼鈴。

もし、もし、こちらは大島監視哨であります。わが海軍飛行隊は、敵機十数機を射落し（電話の呼鈴）残余十三機は一斉に白旗を掲げたるにより、（電話の呼鈴）これを波浮港外に誘導着水せしめたり。終り。

この報告は二度、電話の呼鈴で遮られ、次第に低く聞える。これに代つて、時計のチクタクがはつきり聞えて来る。

欽蔵　どうも御苦労様でした。加代は、すると一緒に救護所の方へ行つて居りますんですな。

防毒班A　えゝ、あちらへは、どなたもおいでにならないやうについていふ御言伝でした。

欽蔵　駄目ときまつたなら、遺骸はすぐにこちらへ、引取らしていたゞけませうか。

A声　さあ、僕にはよくわかりませんが……その事だけなら、お伝へして置きませう。

欽蔵　何分よろしく。

戸を閉める音。

美代　お父つあん。

欽蔵　馬鹿野郎！　その面はなんだ。今は戦争ぢやねえか。貴様たちは、大体、生きてゐてなんになるんだ。かういふ時は、死ぬのが当り前ぢやねえか。畏れ多い事だが、上御一人に御障りさへなければ、日本国中、誰一人、死んぢやならねえといふ人間はねえんだ。畜生め、承知しねえぞ。

欽蔵は、やけに時計のねぢを捲く。戸の開く昔。人声。

加代　お父つあん。鉄ちやんを、連れて来ましたよ。おつ母さん、蒲団を敷いてやつて下さい。

沈黙。時計のチクタク。

遠くで万歳といふ声。電話の呼鈴。

東金監視隊本部報告。両翼を大破せる敵重爆一機、只今、九十九里海岸片貝町の海上に不時着。直ちに、その乗組員四名を捕虜とす。なほ、他の一機は、同町二千米の沖合に墜落せるものゝ如く、

捜索の結果、遂に機影を発見せず。

時計のチクタク。

欽蔵　白いきれはないか。

加代　今ガーゼを出します。おつ母さん、金盥（かなだらひ）に水をくんで来て頂戴。それから美代ちやん、二階の机の上の花瓶から桔梗（ききやう）の花を二つぬいて来て……萎（しを）れてないのをね。

近所からのラヂオが聞え出す。

ＪＯＡＫ……こちらは東京放送局であります。只今から、東京防衛司令部発表のニュースを放送いたします……今夕（こんゆふ）、八月八日午後八時五十五分、同じく九時二十分の二回に亙り、帝国の領土上空を襲ひたる敵機は、総数合せて三十六機、疾風暗黒の夜に乗じて巧（たくみ）に我が攻撃を避け、遂にその数機は、帝都中心圏内に侵入して、若干の損害を与へたるも、天佑、海陸皇軍の作戦を利あらしめ、市民並に隣接諸県官民の沈着剛毅、よく非常防空の実（じつ）を挙げ、茲（こゝ）に、第一回空襲の敵機を文字通り撃滅し得たり……。

この放送の終らない中に、軍楽隊は荘厳勇壮な君ヶ代マーチ（或いは『海行かば』）が吹奏される。

庄市がかけ込んで来る。

庄市　旦那、どうもとんだことで……たつた今、救護所でその話を聞いたんです。

欽蔵　うむ、聞いたか。

庄市　えらい評判です。

加代　あたしが見つけたのよ。

庄市　さうですつてね。あ、あの婆さんは、助かつてますよ。

万歳、万歳。

欽蔵　（『万歳』といふ声に耳をすまし）やい、鉄蔵、あの『万歳』が聞えるか。あの楽隊が聞えるか。

急に、いくが声をあげて泣き出す。美代も、これにつれて泣く。

庄市　お神（かみ）さん、泣くつて法はないや。名誉の戦死でさあ。

欽蔵　なに、かまふこたあねえ、泣きてえものは泣け〳〵。けちな涙たあ、わけがちがはあ。おい、お加代、祝盃だ。冷（ひや）でいゝから、一本持つて来い。（胸が一つぱいだといふことがわかる）

マーチ、万歳の声。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集6」岩波書店
1991（平成3）年5月10日発行
底本の親本：「花問答」春陽堂書店
1940（昭和15）年12月22日発行
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
入力：kompass
校正：門田裕志
2011年7月6日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

空の悪魔（ラヂオ・ドラマ）

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/